

## 観光ビジョン・パブリックコメントについて

No.	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
1	計画全体	<p>村にとって収入の面から整理することが分かりやすいと考える。</p> <p>赤字施設であっても、施設があるから住む人が増えたり、事業者の売上に繋がるならば、結果税収増に繋がる。</p> <p>個人が自宅設備を直して使い続けるように、観光施設が赤字で費用が掛かるから。という考えで廃止する考えは、来村する方をおもてなしする施設が無くなり、魅力を感じず、移住希望者も居なくなってしまう。</p>	<p>観光ビジョンの中では、特定の施設の運営方針について示してはいません。</p> <p>ただし、来村する方をおもてなしするための対策は重要であると考えます。</p> <p>今後は、庁内の各施設担当課と、課題共有、連携を図りながら、ビジョンの達成に向けて取り組みを進めます。</p>
2		<p>移住者目線からすると、村の医療制度や補助事業など、大変良いと思う反面、日常の買い物では村外に出る必要があることなどの不便さがある。</p> <p>他地域では、商業施設と劇場をセットにしたり、ワンストップ化することで、買い物や用事を一度に済ませることができる。</p> <p>例えばファームスなどがこのような施設になることは、大変便利であるとともに、来村される方へのおもてなしにもつながると考える。</p>	No. 1 に同じ
3		<p>全体として、地域の実情を知らない人が描いた理想が並ぶ印象であり、抽象度が高く、木島平村でなくても当てはまる汎用性が高い文章とも受け取れる。</p>	<p>このビジョン策定は、事業者ヒアリングや検討会での議論を経ています。</p> <p>長く村に居ると何ともないモノも、他の地域や移住された方の目線では、魅力的なものが多く、そういったモノをいかにうまく活用するかが課題と考えています。全体を通じてこれらの目線をビジョンとしてまとめています。</p>

No.	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
4	第2章-2 ①語らいの風景： 縁側での何気ない 談笑	干し柿、ふらりと立ち寄れる家、自家製の野沢菜漬けなどをキーワードとしているが、作り手が減少している点について、実装段階ではその「なり手」を増やすことや、現在継いでいる人たちの労苦への理解と敬意を意識しながら進めることが大事と考える。 都市部の人達も「楽しい部分だけを楽しむ」のではなく、それを守り続けてきた大変さに思いをはせ、時間はかかるが、可能な限り自分も臨時的な担い手として関わられるような形を作ることが村らしい形かと考える。	ご意見のとおり、当たり前のような風景も作り手（担い手）が減少しており、人材の確保が重要になると考える。これらを提供できる状況の際、受け手（都市部の方）には経過や背景も併せて伝えることが重要です。 策定をするアクションプランにおいて、具体的な取り組みの方針を定めていきます。
5	第2章-2 ④協働の風景：農 作業を通じたつな がり	村では実際にハゼカケ（稲架がけ）をしている「農家」はほとんど無く、繁忙期に肩を並べて作業できる農家が実際に居るか？想定は「非農家」で農業体験に力を貸せる人ということか？ 目的とする事が、戦略と実情のギャップが課題にならないか心配。	今後策定をするアクションプランにおいて、具体的な進捗を定めることとしますが、取り組みを進めるにあたり、ビジョン達成に向けた賛同者（協力者）を農家・非農家（兼業農家）の別にかかわらず、いかに増やしていくかが重要と考えています。
6	第2章-2 ⑤恵みを囲む風 景：地元の食卓を 味わう幸せ	「普段通りのおいしい」自体の存在が受け継がれず「再現不可能な味」になりかけているように感じる。この事業を通じてその魅力が再認識され、村内でも継承者が増えることを期待する。	今後策定をするアクションプランにおいて、具体的な進捗を定めることとしますが、No.5 同様に賛同者（協力者）をいかに増やしていくかが重要と考えています。
7	第2章-2 ⑥営みの風景：あ りのままの日常に 触れる感動	実現に向けて【村民が届ける日常価値】をリアルに分析すると見えてくる、祭典団、消防団や地区活動といった、敬遠されがちな部分の魅力が観光事業を通して再定義されたり、村民自身が大切さを再認識するきっかけになればよいと思う。	ありのままの日常には、ご意見のような地域活動なども一つかと考えます。 村内にいくつも散らばる「ありのままの日常」を強制的ではなくも、再認識するきっかけにしていきたいと考えます。

No.	該当箇所	意見要旨	意見に対する考え方
8	第3章-2 コンセプト	「暮らしまるごと、うまい村。」は、何か巧いことを言おうとしている印象があり、馴染まない。例えば「暮らしも観光もまるごと木島平村」といった素朴で分かりやすい言葉の方が浸透しやすいと現時点では思う。使ううちに馴染むと思うので、このコンセプトが定義する良さを、どんどん伝えてほしい。	ご意見のとおり、コンセプトに込めた意図や思いを策定するアクションプランにおいて、実践していくことで、4年後に描く将来像の実現を目指します。
9	第4章-2 (3) 木島平村ファンの拡大と継続した関係づくり	担い手の造成、育成についても今後組み込んでいく必要があると感じる。 例えば、一時的でも、学校と連携したり、夏祭りや村民祭のように生涯学習や教育関係の組織を利用したりすることで、半強制的に出役させられるような半強制的な力を活用する。 観光事業の活性化に伴って、村民が「自分たちが地域を盛り上げられる」という成功体験が積み重ねられていくといいと思う。	今回策定をした具体的な取り組みにおいて、各場面においてそれぞれの担い手育成は重要であると認識しています。 各取り組みで、参加いただく村民（担い手）の方が、継続的に活躍できるようアクションプランにて定めていきます。
10	第5章-1 (2) 役割分担	個の推進体制における村民の役割から得られる利益（メリット）部分をきちんと考える必要がある。この地域の担い手が「やって当たり前」とされ、それが不満となる場面も多くある。この戦略で進める以上、スポーツや観光産業が村民や地域にとってどのような利益をもたらしているのか、逆に村人の営みがどの程度大変な役割を担っているのか、関係者それぞれがお互いの立場を想像して、少なくとも主体者は理解しあって進めることが大事である。	ご意見のとおり（2）役割分担にて、参加いただく村民（担い手）の方が、単に強制参加であったり、負担ばかりを強いる仕組みにならないようにする必要があると考えています。 各取り組みにおいて参加するプレイヤーのそれぞれが、お金だけでなく何かしらの利益を受益できるよう、アクションプランにおいて定めていきます。